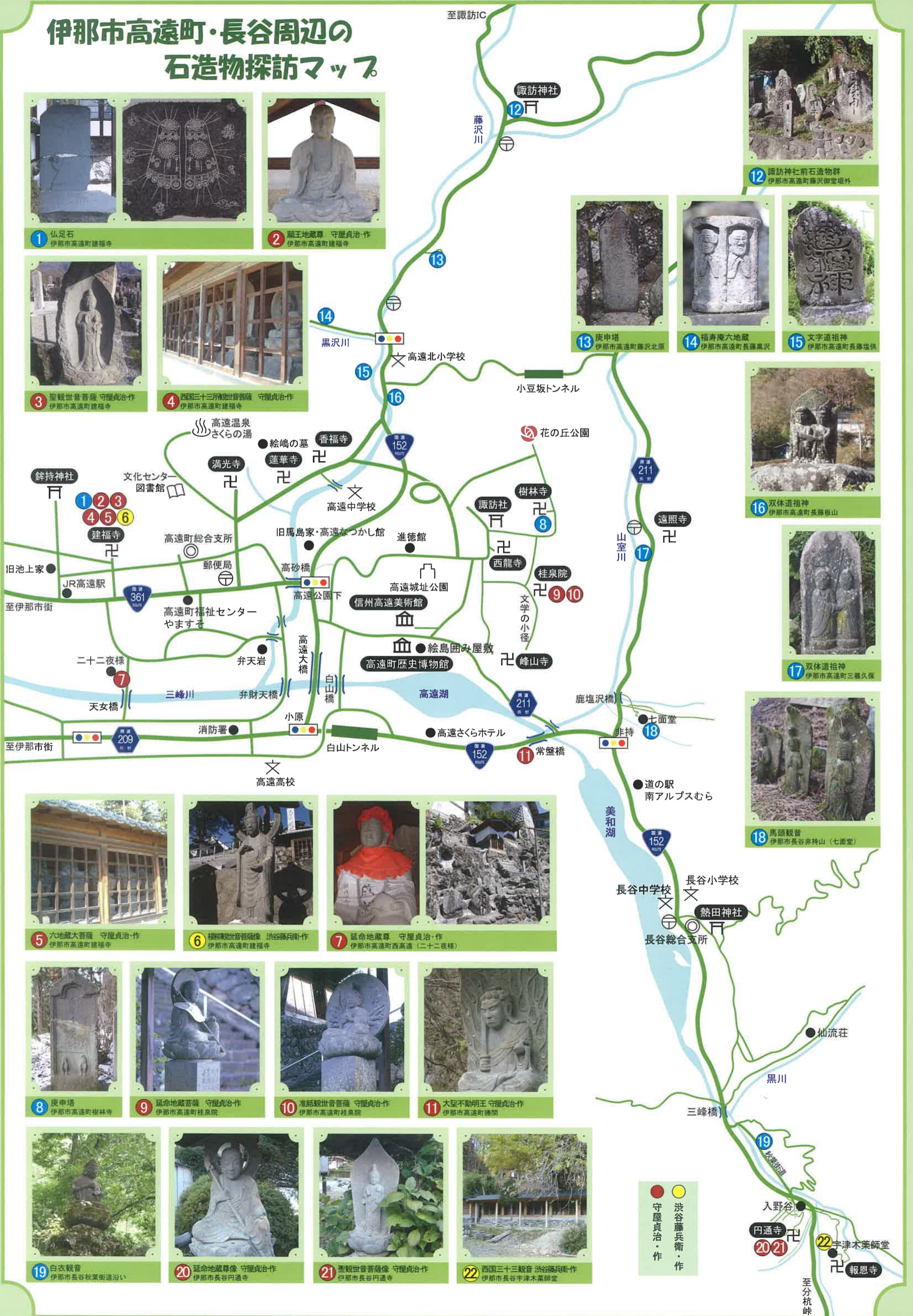


# 伊那市高遠町・長谷周辺の 石造物探訪マップ



1 仏足石  
伊那市高遠町建福寺



2 願王地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市高遠町建福寺



3 聖観世音菩薩 守屋貞治・作  
伊那市高遠町建福寺



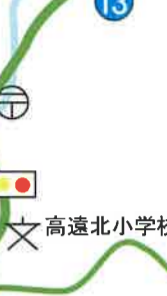
4 西国三十三所観世音菩薩 守屋貞治・作  
伊那市高遠町建福寺



5 六地藏大菩薩 守屋貞治・作  
伊那市高遠町建福寺



6 権現観世音菩薩像 渋谷源兵衛・作  
伊那市高遠町建福寺



7 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市高遠町西高遠(二十二夜様)



8 庚申塔  
伊那市高遠町樹林寺



9 延命地藏菩薩 守屋貞治・作  
伊那市高遠町桂泉院



10 准胝観世音菩薩 守屋貞治・作  
伊那市高遠町桂泉院



11 大聖不動明王 守屋貞治・作  
伊那市高遠町膳間



12 諏訪神社  
伊那市高遠町藤沢北原



13 庚申塔  
伊那市高遠町藤沢北原



14 福寿庵六地藏  
伊那市高遠町長藤黒沢



15 文字道祖神  
伊那市高遠町長藤黒沢



16 双体道祖神  
伊那市高遠町長藤黒山



17 双体道祖神  
伊那市高遠町三義久保



18 馬頭観音  
伊那市長谷非持山(七面堂)



19 白衣観音  
伊那市長谷秋葉街道沿い



20 延命地藏尊像 守屋貞治・作  
伊那市長谷円通寺



21 聖観世音菩薩像 守屋貞治・作  
伊那市長谷円通寺



22 西国三十三観音 渋谷源兵衛・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



23 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



24 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



25 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



26 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



27 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



28 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



29 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



30 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



31 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



32 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



33 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



34 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



35 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



36 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



37 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



38 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



39 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



40 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



41 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



42 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



43 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂



44 延命地藏尊 守屋貞治・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂

● 守屋貞治・作  
● 渋谷源兵衛・作



12 諏訪神社  
伊那市高遠町藤沢御堂垣外



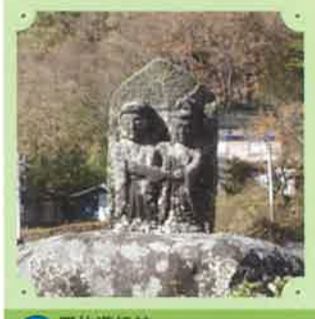
13 庚申塔  
伊那市高遠町藤沢北原



14 福寿庵六地藏  
伊那市高遠町長藤黒沢



15 文字道祖神  
伊那市高遠町長藤黒沢



16 双体道祖神  
伊那市高遠町長藤黒山



17 双体道祖神  
伊那市高遠町三義久保



18 馬頭観音  
伊那市長谷非持山(七面堂)



19 白衣観音  
伊那市長谷秋葉街道沿い



20 延命地藏尊像 守屋貞治・作  
伊那市長谷円通寺



21 聖観世音菩薩像 守屋貞治・作  
伊那市長谷円通寺



22 西国三十三観音 渋谷源兵衛・作  
伊那市長谷宇津木薬師堂

# マップ解説シート

## たかとおいしく 高遠石工

江戸時代、信州高遠は石工の里として全国的に知られていました。高遠藩領内各地の村々から、優れた腕を持つ石工たちが全国各地に出向き、出張先で石仏や石塔、石橋、鳥居、石垣など様々な石造物を造立しました。彼ら「高遠石工」の多くは、農耕地が狭い山間部の農家で二男以降に生まれた男子です。一般的には農作業の傍ら、農閑期を中心に旅稼ぎをしていたと言われていたのですが、当時の石工は大工など他の職人と比べて給金が良く、仕事が豊富であったこともあり、農閑期だけの兼業石工ではなく、石工を専門の職業とする専業石工も多く存在しました。現在、高遠石工の銘が確認されている石造物は、北は青森、南は山口の1都18県に及びます。和泉石工（泉州石工）など、高遠石工と同時期に活躍した石工集団は他にもいましたが、高遠石工ほど多くの銘を残していません。「高遠」という銘がはっきりと確認できるのが元禄期以降であるため、高遠石工の活動年代は内藤家が高遠藩を拝領した元禄4年（1691）以降とみる向きもありますが、山梨県甲府市塩澤寺にある正保5年（1643）銘「大工信州之角兵衛」の無縫塔をはじめ、元禄期以前の高遠石工の作と推定される石造物も確認されているため、江戸時代初頭より広域的な活動をしていたと考えられます。高遠石工が確かな技術で刻んだ石造物は、人々の心を捉え、江戸時代中期にはその名が全国にとどろくようになりました。「高遠石工」の名が一種のブランドと化したことによって、その活動も一層盛んになり、各地で多くの作品を残すこととなったのです。

## せきぶつし もりやさだじ 石仏師・守屋貞治

2 3 4 5 7 9 10 11 20 21

江戸時代、石工の仕事は細分化され専門性が高い者も増えてきましたが、高遠石工の中でも稀代の名工と呼ばれたのが守屋貞治です。彼は石仏の制作を専門とし、68年の生涯において336体におよぶ名作を残しました。

貞治は明和2年（1765）、高遠藩藤沢郷塩井村（現：伊那市高遠町長藤）で守屋孫兵衛の三男として生まれました。守屋家は貞治の祖父・貞七の代から石工を生業としており、貞治も自然と石工を志すようになりました。修業時代の師は不明ですが、造形や技法の面で祖父や父の影響が垣間見られます。

温泉寺（現：諏訪市）の住職で名僧と名高い願王和尚を仏道の師と仰いだ貞治は、自らも仏に帰依し、経典や儀軌（経典に説かれた仏、菩薩などの姿形をまとめたもの）に基づいて仏心の込められた石仏を刻みました。石仏を刻む際は経文を唱え、香をたきしめて作業に打ち込んだといわれています。貞治が単なる「石工」ではなく「石仏師」と呼ばれるのは、こうした所以からです。

貞治は亡くなる前年の天保2年（1831）に、自身の生涯を振り返り、これまでに彫り上げた石仏を『石仏菩薩細工』にまとめていますが、これによると貞治が遺した作品は1都9県（東京都、神奈川県、群馬県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、兵庫県、山口県）に及びます。西日本に作品を残した高遠石工は貞治以外には確認されておらず、また他の高遠石工を見ても複数の場所で活動した例は少ないため、この広範囲にわたる活動こそが貞治の特徴といえます。これは願王和尚の影響によるところが大きく、貞治のよき理解者であり、彼の石仏を礼賛した願王和尚が、全国各地の布教先で貞治を推薦したためと考えられます。身を律し、ひたすら意にかなう石仏を刻み続けた貞治でしたが、天保3年11月19日、静かに68年の生涯を終えました。他の石工を圧倒する技量で彫られた貞治の石仏は、端正で繊細優美でまさしく「貞治仏」と呼ぶにふさわしい名作ばかりです。

## しぶやとうべえ 渋谷藤兵衛

6 22

守屋貞治の一番弟子と呼ばれるのが、渋谷藤兵衛です。天明4年（1784）に高遠藩川下郷川手村（現：伊那市美篤）で生まれた藤兵衛は、10代の頃から石工としての修行を積み、30歳の頃貞治に弟子入りしたといわれています。藤兵衛の作品は伊那市内では天竜川より東側、美篤や富県、高遠、長谷などに多く見られます。貞治のものと同様で、細工の繊細さは貞治以上ともいわれます。嘉永2年（1849）に建てられた楊柳観世音菩薩像が最後の作品で、柳の枝を持つ左手の仕草は、今にも動き出しそうなほど美しく感じられます。

## ぶつそくせき 仏足石

1

仏足石は釈迦の足跡を石に刻んで信仰の対象としたもので、仏像を造る習慣のなかった古代インドで生まれ、奈良時代に唐から日本へと伝わりました。現存する日本最古の仏足石は、753年に奈良の薬師寺に造立されたものです。仏足石信仰は奈良時代以降に一旦途絶えてしまいましたが、江戸時代中期に復活し、各地で盛んに仏足石が造られるようになりました。建福寺（高遠町西高遠）の仏足石は伊勢の金剛證寺にある仏足石の模刻で、仏を讃える歌碑を伴っており、天保6年（1835）に高遠藩土岡村菊叟が中心となって造立しました。

## かんぜおんぼさつ 観世音菩薩

3 6 10 18 19 21

人々に観音様と親しまれる観世音菩薩は、人々の苦しむ姿を見るとすぐにその場に駆けつけて苦難を救ってくれるという現世利益の強い仏様です。

ほころび始めた蓮の花を持つ「聖観世音菩薩」、白い衣を着けて白い蓮の中にいる「白衣観音」、たくさんの手を持ち体の正面で法印を結ぶ「准胝観世音菩薩」など、様々な観音像が信仰の対象として造られました。

頭に馬を抱く姿の「馬頭観音」は、馬の安全息災を祈ったり、死馬の供養のために建てられたもので、非持山（長谷）の七面堂の南には、上伊那で最も古い元禄2年（1689）の銘をもつ馬頭観音が祀られています。

## さいごくさんじゅうさんしょかんのん 西国三十三所観音

4 22

近畿地方を中心とした33カ所の観音霊場を巡る「西国三十三所巡礼」が流行した江戸時代、わざわざ西国まで巡礼しなくても1カ所ですべての観音が巡拝できるように、一番寺から三十三番寺までの本尊を刻んで御詠歌を添え、1カ所にまとめて安置したのが西国三十三所観音です。

宇津木薬師堂（長谷宇津木）の三十三所観音は、高遠藩御用絵師・池上休柳が観音像を描き、同じく藩士の岡村菊叟が御詠歌を書いた上で、渋谷藤兵衛がそれらを石に刻んだものです。開眼供養は弘化2年（1845）に行なわれました。

一方、建福寺（高遠町西高遠）の三十三所観音は、守屋貞治が文化・文政年間（1804～1829）の頃に作ったものといわれており、現在も多くの人が祈りを捧げています。

## こうしんとう 庚申塔

8 12 13

庚申は、60日に一度巡ってくる「庚申」の晩に行なわれた民間信仰の行事で、江戸時代に各地で盛んに行なわれました。庚申の夜になると、人の体に住む虫が体内からそとと抜け出て天帝のもとへ行き、日ごろ見ているその人の悪事を告げるといわれ、それが積み重なると命を落としてしまうので、その夜は眠らずに慎ましく過ごすという慣わしでした。60年に1度巡ってくる庚申の年には、塔を建てて盛大に祀り、村内に悪疫や災厄が入り込まないように祈願をしました。これが庚申塔と呼ばれるものです。

北原（高遠町藤沢）の庚申塔は明暦2年（1656）に作られたもので、伊那谷最古のものといわれています。また、寛文12年（1672）に作られた樹林寺（高遠町東高遠）の庚申塔には、2匹の猿「見ざる」「聞かざる」が浮き彫りにされています。

## どうそじん 道祖神

12 15 16 17

村の守り神として知られる道祖神は、村境や辻などに立って災厄や疫病が村へ入るのを防ぐとともに、子孫繁栄や五穀豊穡、旅人の安全を祈るなど様々な利益を願うために信仰されました。「道祖神」という文字のみを刻んだ文字道祖神や男女が仲睦まじく寄り添う様子を浮き彫りにした「双体道祖神」などがあります。有名な安曇野の道祖神の中にも、高遠石工たちが刻んだものがあります。

## ふどうみょうおう 不動明王

11

不動明王は、一切の煩惱を焼き尽くすという炎を背に抱き、悪を打ち砕き煩惱や因縁を断ち切る剣を右手に持ち、悪を縛りあげ人々を吊りあげて救い出すための縄（箱索）を左手に持ち、憤怒の形相で牙を剥きだしています。

常盤橋（高遠町勝間）の西側のたもとに位置する守屋貞治作の大聖不動明王は、集落を背にした村境に座しており、昔も今も外から入ってくる災厄から村を守っています。

## じぞうぼさつ 地藏菩薩

2 5 7 9 14 20

昔話「かさじぞう」でも知られる地藏菩薩は、あらゆる人を救済するといわれ、祈りに特別なきまりはなく、自分の願いを直接ぶつければよいとされたことから、宗派を超えて多くの人々の信仰を集めました。

地藏菩薩を6体並べたものが六地藏で、六道という輪廻の世界から人々を救うとされています。また、延命地藏菩薩は子どもを守り、長寿に導くとされ、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、蓮華座に乗っている姿が一般的です。

※各項目表題の右側の丸囲みの数字は、表のマップに掲載されている石造物の番号を示したものです。